

第4回分科会における委員ご意見について

第4回分科会における委員からのご発言（要旨）

【採用】

- 民間就活のスケジュールが前倒しになっていることを踏まえ、国家公務員の採用も一部試験科目について大学1年次から受けられるようにしている。民間就活が早まった結果、学業を圧迫している現実は見通せず、社会全体として大学生の就活時期を見直す必要があると考えるが、現状、地方公務員の採用だけ民間や国家公務員に比して著しく遅いという状況は致命的であり、試験時期の前倒しを進める必要がある。
- 新規採用だけでなく、通年採用や経験者採用を拡大する余地があるのではないか。

【タレントマネジメント】

- タレントマネジメントのシステム導入に伴い、管理職の労力が増加することについても対応することが必要。

【人材シェア】

- 自治体間で人材を奪い合いするのではなく、シェアすることが現実的ではないか。育成や配置で広域的に助け合うことも示した方がよいのではないか。災害時以外の平時においても人材のシェアを進めることを検討した方がよい。

【自治体業務の見直し】

- 業務負荷の軽減についても打ち出す必要がある。業務負荷の軽減を伴わない働き方改革は、一部の職員にしわ寄せが来る。
- 業務負荷の軽減の手法として、伝統的には民間委託という手法が取られてきた。ただ、官民通じて人手不足の状況であり、これまでどおりの民間委託も難しくなるだろう。業務量自体を見直す時期なのではないか。

【その他】

- 専門人材の確保は、各自治体で困難を抱えている。リボルビングドアとなる取組も重要である。また、専門人材についても頭出しした方がよい。
- 自治体の規模や地域の事情により取るべき対応策は異なるであろう。多様な選択肢を示した上で、各自治体がそれぞれの課題に応じて解決策を模索していくことを盛り込むべきではないか。